

## 米国金融政策（2024年9月FOMC）

### 利下げ幅の見方が揺れた中で0.50%ptで利下げを開始

2024年9月19日

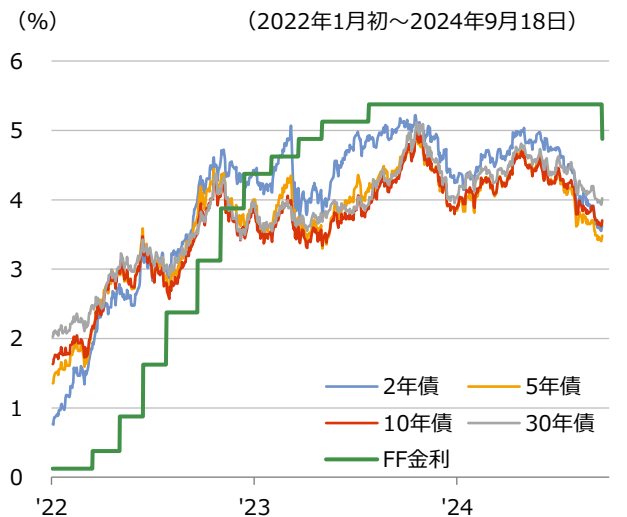
### 追加利下げの可能性を示唆も大幅利下げを前提とせず

FRB（米国連邦準備制度理事会）は9月17日～18日（現地）にFOMC（米国連邦公開市場委員会）を開催し、政策金利であるFF（フェデラル・ファンド）金利の誘導目標レンジを0.50%pt引き下げ、4.75～5.00%とすることを決定しました。FRB高官は利下げ開始でこそ事前にまとまったものの、利下げ幅は最後まで示唆されず、市場参加者の見方は0.25%ptか0.50%ptかで揺れ続けました。なお、保有証券の縮小ペースは国債で月額250億米ドル、住宅ローン担保証券で月額350億米ドルとの方針を維持しました。

声明文は「雇用の最大化を支える」と表明し、利下げは労働市場の安定化を目的としています。注目されたFOMC参加者のFF金利見通しは中央値で2024年末が4.375%（前回5.125%）、2025年末が3.375%（同4.125%）へ引き下げられました。他方、パウエルFRB議長は「0.50%ptを新たな利下げペースと見做すべきではない」と述べたほか、「景気後退の可能性が高まっていることを示すものは何もない」とも強く指摘しています。したがって、目先の利下げペースは緩やかになる可能性が高いと考えられます。

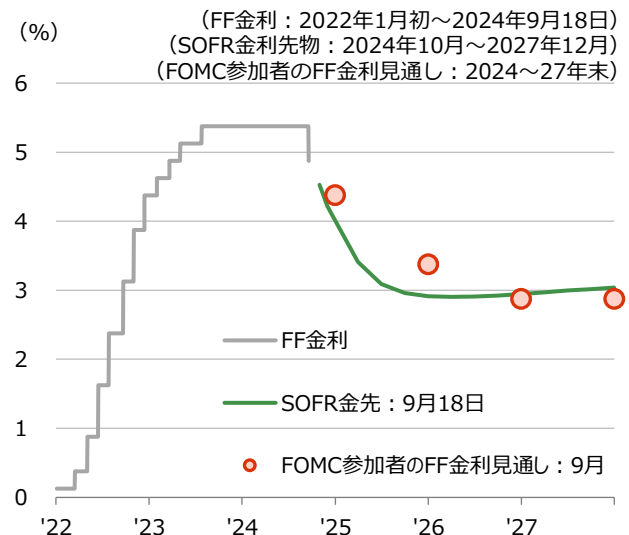
9月FOMCを控える中でFF金利先物は来年末にかけて急速な利下げを織り込んでいたため、金利はFOMC後に中長期を中心に上昇しました。今回の結果を踏まえると、年内残り2回のFOMCで0.25%ptずつ追加利下げが行われる可能性が高いとみられます。ただし、労働市場を中心に景気モメンタムが急速に悪化する場合に大幅な利下げとなるリスクもあるため、今後の景気指標が引き続き注目されます。

#### FF金利と米国債利回り



※FF金利は決定日ベースで誘導目標レンジの中心値  
(出所) ブルームバーグ

#### FF金利の実績と見通し



※FF金利は決定日ベースで誘導目標レンジの中心値  
SOFRは担保付翌日物調達金利の略 (出所) FRB、ブルームバーグ

#### 当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。